

週 報

2018. 7.8

この人たちは、・・・・・・・・・・
ともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。 (使徒1:14)



夕焼け さいとうあつし
齋藤 篤 牧師撮影

AM10:30 主日礼拝

メッセージ：「主から恵みを受ける3つの方法その2、planその3」 (祈りを集める)

使徒行伝1章14節

メッセンジャー：林田耕治

(イエス・キリスト企救エクレシア)

まねぎのことば

招 詞

(イザヤ40章31節)

「主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。
走ってもたゆまず、歩いても疲れない」

深沢教会イエス・キリスト企救エクレシア (バス停・徳寿園入口から北へ20m)

〒802-0974 北九州市小倉南区徳力4-17-15

TEL/FAX : 093 (964) 2590

E-mail : kikeecclesia@gmail.com

URL : <http://kiku-ecclesia.2is1.jp>



以前、学校の保健体育の教師をしていた時に保健の授業で集団のあり方について教えたことがあります。集団の分け方には、大きく2通りの分け方があるということです。ひとつは「もち型集団」で、もうひとつは「アジサイ型集団」です。もち型集団は、ひと粒ひと粒のもち米が、その形がなくなるまで打ち砕かれて、ひとつの大きな餅という集団になっていくものです。それに対しアジサイ型集団は、ひとつひとつの小さな花がそれぞれに美しく咲いて、それらの花が寄り集まって、色とりどりの花を咲かせるという集団です。前者は日本型の集団を表し、後者は欧米型の集団を表しているということです。

この欧米型集団の基礎になっているのは聖書の教えであり、イエス様の教えです。それは「神と人」という関係の中で、ひとりひとりの人格(人間性)を尊重し、それぞれの賜物(個性)を活かし伸ばしていくという教えです。

そのキーワードといえる言葉が、本日の聖書の箇所に記載されているイエス様の言葉です。イエス様はここで弟子たちに対して、唐突とも思えるほどのタイミングで、「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」と言われました。そこには単なる友達という意味合いではなく、父なる神様、イエス様の思いを共有し、それをいずれ実行して欲しいという願いが込められていました。

イエス様の切なる願いは、「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」ということでした。イエス様はこのことを具体的に示すために、自ら進んで、取税人や罪びとたちと食事をとともにされました。「ごはんの友」となられたのです。これを見た、律法学者・パリサイ人は「あなたがたの先生は、なぜ罪人や取税人らと食事をとともにするのか」と迫りました。当時の律法の規定では、そのような場所に入ったり、そこにいる人々と食事することを禁じていました。これに対してイエス様は「わたしがこの世に来た目的は、このような罪人を招くためである」と答えられました。

イエス様が「友」と呼ばれたのは、人間が定めた規定や規約を越えて、この言葉の通りに、ひとりひとりの人間を尊い存在として愛し扱かれるという姿勢を示していました。イエス様は、十字架にかかって、わたしたちの罪をゆるし、その極みまで愛し、ひとりひとりを大切な友としてくださいました。イエス様とともにあれば、すべての人が人生の花を咲かせることができるのです。

今、日本の社会は人間性まで無くさせてしまうような忖度(そんたく)の社会から、すべての人が人生の花を咲かせることができる社会に変わっていくことが望まれています。このことを実現させてくださるのがイエス様の教えなのです。

Memo :





(前号からの続き) 人間は決して笑いながら死なない。恐怖に震え、絶望に苦しみながら死ぬ。そこに神が必要になる。これが一般的な「死」の姿である。

では、私が子供の頃に見た、あの田舎の素朴な人たちの、穏やかで静かな人生退場の姿は一体どう解釈すればよいのだろうか？

水上勉の小説の中に「草民(そうみん)」という言葉が出てくる。この言葉は辞書を引いても出てこない。おそらく、水上勉自身の故郷、福井県若狭地方の言葉であろう。小説の舞台は昭和の初期の頃の、どこかの地方である。そこに生まれた人は、貧困にうちひしがれて生き、そしてひっそりと死んでゆく。そのような名も無き人にスポットライトを当てるのが水上勉はまことにうまい。哀切の思いをこめて描く。



私はそのような「草民」の姿を読んだ時、ロウソクが消えるように「スツ、と死んでいった」人々とイメージが重なるのを感じた。

同じ植物であっても、背の高い木ではない。大輪の美しい花でもない。たくましく自己主張する雑草ですらない。あくまでも地べたの“草”だ。道端の誰も見向きもしない草だ。

聖書にあるように、枯れて炉に投げ込まれる(マタイ6:30)ことさえもない。ただ、秋になるとひっそりと枯れ、そして跡形もなく消えてしまう。まさに“草”にすぎない民である。

あの病気の人の静かな目の光は、“草”の人の目だった。

村で生まれ、立身出世しようなどとは決して思うこともなく、貧しい一生に何の違和感も抱かなかった人の目だ。

仏教的な諦めとも違う。「諦め」というのは「自分の一生、もっと別の生き方が……」という選択肢に気づき、それらの選択肢を諦めて来たのが、本当の「諦め」だが、彼らは始めからそんな選択肢のことなど思いもしない。“自ら足りる”ことを知っている。たとえ死がやってきても、当たり前のごとく受け入れる。草が秋に枯れるように……。

私が母と共に見舞いに行ったあの人の目が、物事を透徹したような静かな済んだ光をたたえていたのはそのためであった。死に対しても見事な節度を保っている。

今私はあらためて「すごい！」と思う。そしてその一方で「何と寂しい人生だろう！」とも思う。

(続く)

※ 「草民」を中国の「百度百科」で調べると、「① 古代の無官識者が皇帝あるいは役人の前で自分を卑下して“卑しい”という意を示す。② 民間の民、平民。」とあった。中国の言葉であった。日本の言葉ではなかったが、水上勉はまことに適格に使っている。

10:30~ 主日礼拝

前奏		
招詞	イザヤ書40章31節	司会者
讚美	「アドナイ・エレ（主の山に備えあり）」	〈起立〉一同
//	「今こそキリストの愛に應えて」	//
祈禱		〈着席〉司会者
使徒信條		〈一同〉司会者
聖書	使徒行伝1章14節	司会者
讚美	新聖歌420「雨を降り注ぎ」	一同
メッセージ	「主から恵みを受ける3つの方法その2、planその3」（祈りを集める）	林田耕治
讚美	新聖歌345「沖へいでよ」	一同
主の祈り		〈一同〉司会者
献金	「主の教えを喜びとし」	塔本祐子
報告		司会者
頌栄	新聖歌63「父、御子、御霊の」	一同
祝禱		
後奏		
当番：立石才子	司会：立石才子	奏樂：安武・林田・立石
メッセージ：林田耕治		献金：塔本祐子



※お体の具合の悪い方は座ったままで結構です。

次週（7月15日）主日拝奉仕者

当番：衛藤照子 司会：塔本祐子 奏樂：安武・林田・立石
メッセージ：衛藤照子 献金：林田耕治

報告 7/10 (火) AM10:00 徳力市民センターにて、ゴスペル教室「みんなのゴスペル」を行います。講師は、ゴスペルシンガーの「マナ」さんです。（※参加費：一人1,000円 連絡：080-3905-7203 林田まで）

※ 企救丘市民センターの改装工事に伴い、徳力市民センター（TEL. 093-963-0158 小倉南区南方2丁目5-37 <http://www.ktkc01.net/mina/ktcc/access.html>）にて行います。 徳力市民センターアクセスQRコード →



祈り ※共に祈りあいましょう。祈りは油であり、灯の源です。

- 1、熊本地震で被害を受けた方、復旧に働いておられる方のために！
- 2、東日本大震災で亡くなられた方、原発の被害にあわれた方、避難されている方、奉仕されている方のためにお祈りいたします。
- 3、日本と諸外国との色々な問題が、主によって速やかに、また私たちの思う所、願う所を超えて益となる解決がなされますように！



先週の礼拝人数

男性6名

女性5名

子供5名

計16名